

第 72 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境（雑木林）の順応的管理—

4月の研修会は、引き続き皆伐を行った雑木林の維持管理及び調査を行いました。



初夏のような陽気の谷戸山公園。繁殖期を迎えた
シュレーゲルアオガエルのコロロ…と鳴く声が聴こえていました。



はじめに講師から研修内容等の説明があります。
また、ビオトープ管理士として、植生調査する際にオススメの図鑑の紹介もありました。



まずは、森の若返りを図るため皆伐更新を行っている樹林の植生調査です。
写真のように林床全体に光が当たるようになり、多少乾燥している場所もありました。



左は切り株から萌芽しているウワミズザクラの新芽、右は実生のウワミズザクラです。
今後、どのような違いが出てくるのでしょうか。これらの芽が、5年後、10年後に
新たな樹林を形成してくれるのを期待し、モニタリングしていきます。



左は「春に咲くラン」と言う意味のシュンラン、右はユリの仲間のホウチャクソウです。
今までは暗かった林床が、裸地に近い環境になったことで、
どのように遷移していくのか、調査を続けていきます。



前回に引き続き切り株の年輪調査をした後、
お昼となりました。



午後は、前回に引き続き皆伐や間伐作業で
大量に発生する木材の使い道について話し合い
ました。実際に薪ストーブを利用している方の
興味深いお話も聞きました。



午後の作業は、キノコのホダ木作りです。キノコの生長の早さなど、樹種による違いを見るため、
皆伐で出たコナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ、エゴノキ、スギ、ヒノキ、サワラ等の丸太を
集めました。



ドリルで、縦に 15cm 程の間隔で穴を開けていきます。



そして、その穴に駒菌を入れ、木槌で打ち込みます。駒菌に泥が付着すると雑菌が入りやすくなるので、植菌部分が地面につかないように注意します。こちらには、シイタケとクリタケの駒菌を使用しました。



また、長さ 20~30cm の少し太めの丸太は、側面だけでなく切断面にも植菌します。
こちらには、ナメコとヒラタケの駒菌を使用しました。



どちらも刈り取ってきた枝葉で日陰を作り、長いホダ木は立てかけ、太いホダ木は半分ほど土に埋めました。

成功したとして、収穫ができるのは、来年の秋以降のようです。雑菌や乾燥に負けず、育ててほしいですね。

これで4月の研修会は終了です。来月からは湿地環境の順応的管理の研修に変わります。管理の現場を見て、体験する事は、ビオトープ管理士にとって必要な経験です。これから夏にかけて、植生が遷移する様子や、生きもの同士の繋がりを一番体感できる季節かと思います。ぜひ、研修会に参加して、知識や経験を増やしていきましょう。